



「笑顔で元気な仲間たちと 僕らの意思を継ぐ君たち

これまでもこれからも ブーゲンビリアのように輝いていこう」

サンホセ日本人学校 校長 半山章人

1967年(昭和42年)当時、コスタリカには日本語を教える学校はなく、日本人子女はみんな現地校に通っていました。しかし、日を追うごとに日本語が貧弱になり、保護者の方は憂慮されていました。そのため、日本人会が中心になり、本国政府の援助も得て日本語普及講座が開設されました。各家庭を持ち回りにした場所の確保など、困難が多くありましたが、約7年間にわたって本講座は続けられました。1973年(昭和48年)、日本人会の学校開設の要望が強まり、日本人会総会において、全日制日本人学校開設要望書が決議し、12月に設立が認可されました。1974年(昭和49年)、学校設立準備委員会の方たちが、仮校舎の決定とともに自分たちの校地、校舎を持つために、熱意をもって動きました。その年の9月29日開校式が行われ、10月1日、サン・ホセ(後にサンホセと改称)日本人学校の歩みが始まりました。そして、2024年(令和6年)創立50周年を迎えることができました。これまでに学校設立や運営、そして教育活動に携わっていただいたすべての皆様に感謝申し上げますとともに、サンホセ日本人学校が未来永劫に存続しますよう今後ともご支援をよろしくお願いいたします。



【1974.9 開校式】



【1975.7 新校舎建設】

(標題は、創立50周年に際して子どもたちが考えたスローガンです)

※本校は、今までに463名の子どもたちが学んできました。校舎内には、卒業記念制作を含め、子どもたちの作品がたくさん掲示されていますので、ご来校いただき、ご覧ください。

【創立10周年記念誌(1984年(昭和59年)発行)から一部抜粋】

□ 人見鉄三郎氏(開校当時の駐コスタリカ日本大使)

「みなさん、自分の学校をつくったことがありますか…。いま学校はできました。でもこれからつくるのです。学校をつくるということは自分のなかにつくることです。…」

□ 卒業生のページ

・「日本人学校では生徒全員が在校生を知っている。大勢の中の一人ではなく、一人一人の比重が重く、個性のぶつかり合いの中でも個々の個性が大事に、そして必要とされていたと感じます。」

・「少人数のせい、日本にいた頃と比較して自分の意見を言う機会が増えた。自分の言った意見にたとえ少しでも耳をかたむけてくれる人がいるということがとてもうれしかった。そしてこれを境目に私自身変わったのだと思う。」

・「資源のないコスタ・リカでは子供のことを資源と呼びます。だから子供病院はお金があれば、医療費を払わなくてもいいことになっています。経済的に払える人は、当たり前のように払っています。たとえこの国の経済力が、日本より劣っていても、彼らは日本と比べてどんなにすばらしい心を持っていることでしょう。人種差別がありません。一体となりコスタ・リカをすばらしい国にしていこうとしているのです。」

